

一	伝説と史実のはざま 郷土史と考古学	比田井克仁	170	A5	真判	二〇六	一、六五〇
二	北総地域の水辺と台地	地方史研究協議会	301	A5	真判	二〇一	四、九五〇
三	東日本の弥生時代青銅器祭祀の研究	柳田雄山閣	289	B5	真判	二〇二	六、九〇〇
四	喚起泉達録の世界 も一つ	藤田富士夫	485	A5	真判	二〇四	六、〇〇〇
五	伝統の礎 加賀・能登・金沢の地域史	地方史研究協議会	286	A5	真判	二〇四	四、六五〇
六	江戸の暮らしと図鑑	菊地ひと美	581	A5	真判	二〇五	二、九七〇
七	交響する古代 中東アジアの	石川日出志他編	482	A5	真判	二〇二	四、六五〇
八	謎トキ日本史 写真・絵画が語る歴史	日本史視覚教材研究会	186	A4	真判	二〇六	二、九七〇
九	悪の歴史 日本編 上	関幸彦	464	B5	真判	二〇七	三、八五〇
一〇	律令国家の展開過程	瀧音能之	245	A5	真判	一九一	二、六四〇
一一	前方後円墳観察への招待	近藤義郎	366	A5	真判	二〇〇	二、一〇〇
一二	日本古代王権の成立	広瀬和雄	270	A5	真判	二〇一	二、一〇〇
一三	古代王権の空間支配	広瀬和雄	302	A5	真判	二〇三	二、一〇〇
一四	古墳時代の研究	小林行雄	388	A5	真判	一九六	四、九五〇
一五	日本帝国主義史論 前後	江口圭一	306	B5	真判	一九七	二、六四〇
一六	越境する貨幣	歴史学研究会	464	B5	真判	一九九	一、九〇〇
一七	日本社会における王権と封建	阿部猛編	482	A5	真判	一九七	五、五〇〇
一八	図解で迫る西郷隆盛	木村武仁	286	B5	真判	二〇八	一、三三〇
一九	おんな城主井伊直虎 その謎と魅力	アスベクト	464	B5	真判	二〇六	一、一〇〇
二〇	城主になった女 井伊直虎	梓澤要	366	B5	真判	二〇六	九、九〇
二一	加賀藩社会経済史の研究	若林喜三郎	464	B5	真判	一九〇	三、八五〇
二二	近世封建社会の研究	井上準之助	381	A5	真判	一九三	四、四〇〇
二三	日本国憲法を生んだ密室の九日間	鈴木昭典	464	B5	真判	一九五	二、一〇〇
二四	ドキュメント 幕末維新戦争	藤井尚夫	115	B5	真判	二〇三	一、九〇〇
二五	日本古代印文字典	アートダイジェスト	381	A5	真判	一九九	五、五〇〇
二六	長与又郎 日本近代医学の推進者	考古学小高健	289	B5	真判	二〇二	一、一〇〇
二七	歴史における「修正主義」	歴史学研究会	464	B5	真判	二〇〇	二、一〇〇
二八	中世の民衆生活史	木村茂光	471	B5	真判	二〇〇	二、一〇〇
二九	再生する終末思想	歴史学研究会	464	B5	真判	二〇〇	二、一〇〇
三〇	人物で読む近現代史 上下	歴史教育者協議会	685	B5	真判	二〇一	二、九七〇
三一	都市 前近代都市論の(ものから)	青木書店	685	B5	真判	二〇一	四、四〇〇
三二	雑穀 畑作農耕論の(ものから)	青木書店	289	B5	真判	二〇二	二、一〇〇
三三	戦争 I(見るのから)	小林一岳他編	474	A5	真判	二〇三	二、一〇〇
三四	日本古代宮都構造の研究	小澤毅	388	A5	真判	二〇三	四、四〇〇
三五	オオヤマト 古墳群と古代王権	オオヤマト古墳群シンポジウム実行委員会	222	A5	真判	二〇四	三、八五〇
三六	明治維新の再創造 起源神話	宮澤誠一	282	B5	真判	二〇五	一、九〇〇
三七	古代国家と道路 考古学からの検証	近江俊秀	280	A5	真判	二〇六	三、八五〇
三八	都城 シンボリズム	山路直充	641	A5	真判	二〇七	三、八五〇
三九	戦後日本中世史研究と向き合う	青木書店	198	A5	真判	二〇三	一、九〇〇
四〇	対馬古代史論集	永留久恵	388	A5	真判	一九一	三、三〇〇
四一	記番印の研究 近代郵便の形成過程	阿部昭夫	474	B5	真判	一九四	五、五〇〇
四二	秘密結社の時代(河出)	河出書房新社	464	B5	真判	二〇〇	一、一〇〇
四三	近世の地方文化	愛知大学総合郷土研究所	182	A5	真判	一九一	一、一〇〇
四四	將軍権力と天皇 秀吉・家康の	高木昭作	280	B5	真判	二〇三	二、一〇〇
四五	中世・近世土地所有史の再構築	青木裕子	314	A5	真判	二〇四	四、九五〇
四六	江戸のみちはアーケード	鈴木理生	464	B5	真判	一九七	一、一〇〇
四七	江戸・町づくし稿 別巻(新編)	岸井良衛	289	B5	真判	二〇〇	二、一〇〇
四八	報道画家 山本松谷の生涯	山本駿次朗	282	A5	真判	一九一	二、四〇〇

三	玉の井挽歌(新版)	大林清	青蛙房	四六	三〇七	一、六五〇
三	大正の築地っ子(新装版)	岸井良衛	青蛙房	四六	三〇六	一、六五〇
三	大正・本郷の子(新装版)	玉川一郎	青蛙房	四六	三〇七	一、六五〇
三	大正・日本橋本町(新装版)	北園孝吉	青蛙房	四六	三〇五	一、六五〇
三	大正・渋谷道玄坂(新装版)	藤田佳世	青蛙房	四六	三〇六	一、六五〇
三	チャプリンが日本を走った(新装版)	千葉伸夫	青蛙房	四六	三〇七	一、六五〇
三	新宿裏町三代記(新装版)	野村敏雄	青蛙房	四六	三〇八	一、六五〇
三	日本の出版印刷労働運動(戦前・下出版ニ関スル雄)	横山和雄	青蛙房	四六	三〇九	一、六五〇
三	縄文うるしの世界	飯塚俊男編	青木書店	四六	三〇〇	一、六五〇
三	学びあう女と男の日本史	歴史教育協議会	青木書店	四六	三〇一	一、六五〇
三	埴輪群像の考古学	大阪府立近つ飛鳥博物館	青木書店	四六	三〇二	一、六五〇
三	近藤義郎と学ぶ考古学通論	近藤義郎	青木書店	四六	三〇三	一、六五〇
三	退職金の一四〇年	西成田豊	青木書店	四六	三〇四	一、六五〇
三	「韓国併合」100年と日本の歴史学	歴史学研究会	青木書店	四六	三〇五	一、六五〇
三	日本の起源	東島誠 與那覇潤	太田出版	四六	三〇六	一、六五〇
三	日本と中国「脱近代」の誘惑	梶谷懐	太田出版	四六	三〇七	一、六五〇
三	中世資料論の現在と課題(考古学4)	網野善彦他編	名者出版	四六	三〇八	一、六五〇
三	中世から近世へ(考古学5)	網野善彦他編	名者出版	四六	三〇九	一、六五〇
三	中世日本列島の地域性(考古学6)	網野善彦他編	名者出版	四六	三〇〇	一、六五〇
三	近世の裁判記録(史料9)	国文学研究資料館	名者出版	四六	三〇一	一、六五〇
三	男の背中(転形期の思想と行動)	井出孫六	平原社	四六	三〇二	一、六五〇
三	旅と観光の年表	旅の文化研究所	河出書房新社	四六	三〇三	一、六五〇
三	銀座百話	篠田敏造	河出書房新社	四六	三〇四	一、六五〇
三	幕末外交事始(文久遣欧使節竹内保徳)	佐藤明子	宮帯出版	四六	三〇五	一、六五〇

三	高松塚古墳は守れるか	保存科学	NHK出版	四六	三〇七	一、六五〇	
三	正倉院物語	中川登史宏	向陽書房	四六	三〇八	一、六五〇	
三	「大王」の誕生	中田興吉	学生社	四六	三〇九	一、六五〇	
三	弥生時代は どう変わるか	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館	学生社	四六	三〇〇	一、六五〇	
三	宮都飛鳥	小田富士雄他	学生社	四六	三〇一	一、六五〇	
三	倭人伝の国々	直木孝次郎他編	学生社	四六	三〇二	一、六五〇	
三	シンポジウム古代の難波と難波宮	榎本誠一	学生社	四六	三〇三	一、六五〇	
三	前方後円墳・墳丘構造の研究	安藤政雄	学生社	四六	三〇四	一、六五〇	
三	旧石器時代の日本列島史	大平喜間多	宮帯出版社	四六	三〇五	一、六五〇	
三	佐久間象山伝	菊池万雄編	名著出版	四六	三〇六	一、六五〇	
三	近世都市の社会史	遠藤元男編	名著出版	四六	三〇七	一、六五〇	
三	関東の古代社会	鶴岡静夫編	名著出版	四六	三〇八	一、六五〇	
三	古代王権と氏族	鶴岡静夫編	名著出版	四六	三〇九	一、六五〇	
三	古代寺院と仏教	西谷正編	名著出版	四六	三〇〇	一、六五〇	
三	古代朝鮮と日本	小林敏男	雄山閣	四六	三〇一	一、六五〇	
三	明治という時代	大泉光一	雄山閣	四六	三〇二	一、六五〇	
三	歴史研究と「郷土愛」	伊達政宗と 慶長遣欧使節	雄山閣	四六	三〇三	一、六五〇	
三	房総と江戸の交流史	土屋浩	雄山閣	四六	三〇四	一、六五〇	
三	ハンサムウィーマン新島八重	鈴木由紀子	NHK出版	四六	三〇五	一、六五〇	
三	甲斐中世史と仏教美術	植松文次先生顕彰記念 論文集刊行会	名著出版	四六	三〇六	一、六五〇	
三	近世近代の地域寺社の展開過程	吉田俊純	名著出版	四六	三〇七	一、六五〇	
三	常陸国高田神社を事例に	河出書房新社	名著出版	四六	三〇八	一、六五〇	
三	昭和天皇巡幸	前坂俊之編	河出書房新社	四六	三〇九	一、六五〇	
三	大和弥生文化の特質	川部浩司	学生社	四六	三〇〇	一、六五〇	
三	列島考古学の再構築	旧石器から 弥生までの実像	板橋旺爾	学生社	四六	三〇一	一、六五〇

三〇	道輪つくりの 実験考古学	大学合同考古学シンポジウム 実行委員会	学生社	四六 頁判	二〇六	一、六五〇
二九	古墳と古代史	網干善教	学生社	四六 頁判	一九六	一、九八〇
二八	古墳文化出現期の研究	石野博信	学生社	四六 頁判	一九五	一、九八〇
二七	近畿の古墳文化	泉森皎	学生社	四六 頁判	一九九	一、九八〇
二六	「おやまと」の古墳集団	伊達宗泰	学生社	四六 頁判	一九九	一、九八〇
二五	王・民・神々	瀧音能之	名著出版	四六 頁判	一九四	一、九八〇
二四	高家今川氏の知行所支配	東京学芸大学近世史 研究所	名著出版	四六 頁判	二〇二	一、九八〇
二三	江戸周辺を事例として	東京学芸大学近世史 研究所	名著出版	四六 頁判	二〇六	一、九八〇
二二	千川上水・用水と江戸・武蔵野	東京学芸大学近世史 研究所	名著出版	四六 頁判	二〇六	一、九八〇
二一	管理体制と流域社会	東京学芸大学近世史 研究所	名著出版	四六 頁判	二〇六	一、九八〇
二〇	内藤新宿と江戸	東京学芸大学近世史 研究所	名著出版	四六 頁判	二〇五	一、九八〇
一九	歴史学「外」論 どうか考え、 どうか書くか	下田淳	青木書店	四六 頁判	一九六	一、九八〇
一八	近世の都市社会史 大坂を中心に	塚田孝	青木書店	四六 頁判	一九七	一、九八〇
一七	「国風文化」の時代	木村茂光	青木書店	四六 頁判	一九七	一、九八〇
一六	「国風文化」の時代	木村茂光	青木書店	四六 頁判	一九七	一、九八〇
一五	可能性としての女帝	荒木敏夫	青木書店	四六 頁判	一九九	一、九八〇
一四	日本人の植民地経験	大連日本人 商工業者の歴史	青木書店	四六 頁判	一九九	一、九八〇
一三	考古学からみた倭国	白石太一郎	青木書店	四六 頁判	二〇三	一、九八〇
一二	古墳時代の政治構造	アブローチ	青木書店	四六 頁判	二〇四	一、九八〇
一一	前方後円墳の起源を考える	近藤和雄他	青木書店	四六 頁判	二〇五	一、九八〇
一〇	古代日本の構造と原理	館野和己	青木書店	四六 頁判	二〇六	一、九八〇
〇九	縄文時代史研究 序説	戸沢充則	青木書店	四六 頁判	一九七	一、九八〇
〇八	河越氏の研究(第二期関東 書)	岡田清一編	名著出版	四六 頁判	一九七	一、九八〇
〇七	都市江戸への歴史視座	大石学編	名著出版	四六 頁判	二〇四	一、九八〇
〇六	吉原の四季(新装版)	瀧川政次郎	青蛙房	四六 頁判	二〇四	一、九八〇
〇五	戦国大名武田氏領の支配構造	柴辻俊六 名著出版	名著出版	四六 頁判	一九九	一、九八〇
三三	藩国と藩輔の構図	高野信治	名著出版	四六 頁判	二〇三	一、六五〇
三二	地域社会の展開と幕藩制支配	森安彦編	名著出版	四六 頁判	二〇五	一、六五〇
三一	日本帝国主義の形成と東アジア	井口和起	名著出版	四六 頁判	二〇〇	一、六五〇
三〇	書評で読む近世史	深谷克己	名著刊行会	四六 頁判	二〇〇	一、六五〇
二九	東大寺山古墳と謎の鉄刀	東大寺山古墳研究会	雄山閣	四六 頁判	二〇〇	一、六五〇
二八	最終氷期に おける細石刃	狩獵民と 適応戦略	雄山閣	四六 頁判	二〇〇	一、六五〇
二七	近世紀州文化史雑考	寺西貞弘	雄山閣	四六 頁判	二〇四	一、六五〇
二六	江戸時代の歴史	原田伴彦	明石書店	四六 頁判	二〇三	一、六五〇
二五	平賀源内全集 全二巻	平賀源内 先生顕彰会	名著刊行会	四六 頁判	二〇九	一、六五〇
二四	梅園全集 全三巻	梅園会	名著刊行会	四六 頁判	二〇九	一、六五〇
二三	江戸書籍商史	上里春生	名著刊行会	四六 頁判	二〇三	一、六五〇
二二	史料叢書 全二巻	上里春生 名著刊行会	名著刊行会	四六 頁判	二〇三	一、六五〇
二一	評伝田中正造	大澤明男	幹書房	四六 頁判	二〇三	一、六五〇
二〇	將軍の生活	石井良助	明石書店	四六 頁判	二〇三	一、六五〇
一九	幕末の武家新装版	柴田宵曲	青蛙房	四六 頁判	二〇七	一、六五〇
一八	百姓一揆事典	深谷克己監修	民衆社	四六 頁判	二〇七	一、六五〇
一七	旧石器時代 下(講座日本1・2)	稲田孝司他編	青木書店	四六 頁判	二〇七	一、六五〇
一六	日本考古学人物事典	斎藤忠	学生社	四六 頁判	二〇六	一、六五〇
一五	魏志倭人伝の考古学	西谷正	学生社	四六 頁判	二〇六	一、六五〇
一四	古墳社会と地域経営	三木弘	学生社	四六 頁判	二〇六	一、六五〇
一三	京都守護職日誌 全二巻	新人物往来社	新人物往来社	四六 頁判	二〇六	一、六五〇
一二	縄文時代集落の研究	鈴木保彦	雄山閣	四六 頁判	二〇六	一、六五〇
一一	国指定史跡事典	日向諸藩の 事例研究	雄山閣	四六 頁判	二〇六	一、六五〇
一〇	近世の山林と水運	日向諸藩の 事例研究	雄山閣	四六 頁判	二〇六	一、六五〇